

備えあれば憂いなし～災害時医療とトリアージ～

さる9月2日、防災の日の翌日の日曜日に各地で大規模な防災訓練が行われました。防災の日は89年前の正午に起きた関東大震災に因んで制定された記念日です。この日は台風による被害の多い時期とも重なり、防災に対する備えを怠らないためにと1960年に制定されたものです。

相模湾に発生したマグニチュード7.9の地震は関東全域に被害をもたらし、木造家屋の多かった当時、昼時だったことも重なって多数の火災が発生、死者・行方不明者10万人余り、被災者数190万人を数える大災害となりました。

昨年には未曾有の東日本大震災が起こり、想定外の被害が広範囲に及びました。福島第1原子力発電所で起きた事故は今後も長期にわたって地域の環境に大きな被害をもたらすことになるでしょう。防災対策には十分と思われる備えでもさまざまな問題が生じ、限界があることを教えてくれます。職場においてはさまざまな環境が想定され、今後起こりうる大震災に対しては経営者を含む管理者全員で、それぞれの職場環境に見合った十分すぎる備えをしておかなければなりません。

災害時最優先されることは生命の安全確保であることはいまでもありませんが、多くの自治体では防災課が中心となり、消防・警察・医師会・歯科医師会・薬剤師会などの代表者が集まって、災害時医療をいかに効率的に行うか検討されています。

災害時医療で初動の中心となるのがトリアージと呼ばれるもので、同時に多数の負傷者が発生した場合、医療能力を最大限に発揮させ最大数を救命できる方法としてフランスの軍隊によって初めて用いられたものです。その判定は可能な限り医師が行い、病状を4段階に判定し結果は順番に切り取り可能な4色のトリアージ・タグで表示し、負傷者の手首につけます。

その判定は

黒 カテゴリー0・・・死亡、もしくは救命不可能(死亡の判定ではない)

赤 カテゴリーI・・・生命に関わる重篤な状態で救命の可能性あり

黄 カテゴリーII・・・重症だが短時間なら状態は安定

緑 カテゴリーIII・・・致命的でない軽症なもの

搬送や救命処置の優先順位は赤→黄→緑→黒となります。先の震災でも被災した医療現場でこの方法が用いられ、負傷者の効率的な治療に役立ったといわれています。

備えあれば憂いなし。一人でも多く事業者・従業員の方々に防災と災害時医療について意識を高めていただきたいと思います。



多摩東部地域産業保健センター

181-0014東京都三鷹市野崎1-7-23 三鷹市医師会館内

電話番号:0422-47-2155 FAX 番号:0422-48-0982 電子メール: sanpo@mitaka.tokyo.med.or.jp